

音楽学院で自身の経験を生かしながら活動していた新藤さんですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により現在は日本に帰国しています。しかしこの状況のなかでも現地スタッフや同僚に積極的にコンタクトを取りながら、リモートレッスンや同僚教師とのセッションを実施するなど熱心かつ意欲的に活動を継続し、前向きに歩んでいます。



企画調査員(ボランティア事業)\*  
藤松理子(ふじまつりこ)

\*隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業支援のプロ」。また相手国の要望を調査して要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を担う。

+one information

さまざまな言語を操る若者

チュニジアに赴任してまず私が体験したのが10日間のホームステイです。一般家庭で暮らしながら日常で広く使用されているチュニジアのアンミーヤ(チュニジア方言が入ったアラビア語)と、同じく国民の間で広く使われているフランス語に慣れることが目的のひとつでした。私がホームステイでお世話になったのは4人家族の家庭で、中学1年生の息子さんと高校3年生の娘さんがいました。そこでまず驚いたのが娘さんの流暢な英語です。チュニジアでは英語があまり通じないと赴任前に聞いていたからです。彼女はすでにチュニジアの公用語とされるアラビア語と広く使われているフランス語に加えて英語の3か国語を操り、現在は高校でイタリア語を学んでいます。

チュニジアの小学生は1年生で標準アラビア語を習います。これはチュニジアの公式な言語ですが、日常の話し言葉としては使用されていません。そして3年生でフランス語を、5年生で英語を勉強します。高校の上級生になるとさらにドイツ語、イタリア語、スペイン語、中国語から1言語を選んで学ぶことができ、大学の授業はフランス語で行われるのが一般的です。歴史的に使用されている言語が幅広いため、こうしたしっかりとした語学教育が行われているだけでなく、暮らしのなかにも外国語はあふれています。

ホストファミリーとドライブしたときに流れていた音楽のプレイリストには、娘さんがアラブとヨーロッパを中心にセレクトした少なくとも7か国の歌が入っていました。また彼女は家でフランス語のテレビチャンネルを観て、英語の小説を読むなど頻りに外国語に触れていました。こうした生活習慣も若者の語学力の高さの理由なのでしょう。(新藤真理)



イラスト ● さかがわ成美



しっかり練習して  
いきましょうね!

週に1度の個人レッスンの様子。楽譜をドレミで歌いながら弾いていく。



ダンス音楽学院モナスティール支部の前に立つコントラバスを持った銅像。

音楽にひたむきに  
向き合う子どもたちが  
通っています

のバイオリン発表会でピアノ伴奏する機会があり親しくなったバイオリン専攻科の教師とは、多重録音によるアンサンブル演奏をオンラインで実施しました。チュニジアは日本と比べて西洋音楽を学ぶ機会と場所が限られます。ですが私が出会った生徒たちは、自ら進んで夢を実現しようとする行動力と志を持っています。若い世代の彼らとともに、情熱を持って夢に向かっていくことの大切さをこれからも分かち合っていきたいです。



音楽学院のホールで行われた発表会。グランドピアノは2014年にJICAの協力で供与された。

生徒との信頼関係も大切です。私が引き継いだ約2週間後に開催されたピアノの発表会ではうれしい出来事がありました。発表会での演奏が初めての生徒がいたので、リハーサル中に「私のそばから離れないで、演奏を見てほしい」と言ってくれたのです。まだ出会って1か月程度でしたが、彼女が私を信頼し始めてくれたことを実感しました。いまは新型コロナウイルスの影響で一時帰国して日本にいますが、その生徒とは現在もオンラインレッスンを週1回行っています。また、現地



JICA海外協力隊  
がゆく Vol. 25

チュニジアでのピアノの指導を通じて子どもたちに音楽の素晴らしさを伝えている隊員をご紹介します。

構成 ● 坪根育美

in チュニジア  
新藤真理

しんどう・まり  
出身地:東京都 職種:音楽  
任期:2019年12月~2021年12月



生徒たちの音楽への  
情熱にこたえて  
いきたいです!

アメリカ留学でピアノ教育を専攻し、子どもたちにピアノを教えていた経験と、日本で児童英会話講師を7年間勤めた経験を生かして途上国で活動したいと思い、協力隊の応募に踏み切りました。中学校の卒業アルバムには将来の夢を「青年海外協力隊」と書くほど、隊員になりたいという思いを



長年持っていたのです。私が配属されたダンス音楽学院モナスティール支部は、約650名の児童・生徒が通う大きな学校で、首都のチュニスから車で2時間ほどのモナスティール市にあります。ここでピアノ専攻科に所属する6歳から18歳までの生徒22名に個人レッスンをしながら、中間試験の採点と発表会の開催をピアノ専攻科の教師たちと協力して行いました。活動を円滑に進めるには、まず同僚の教師たちと信頼関係を築くことが重要です。私は指導を行う生徒を引き継ぐ前の2週間、レッスンを見学して一緒に生徒を指導したり、意見を交換したりしながら教師たちと絆を深めていきました。